

みやぎGPNニュース



今回の
内容

- 「30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標」とは？
- オオサキワンダーミュージアム～人と大自然の青空博物館～
- ◆SDGsマルシェに出展します！6月22日日曜日：サンモール一番町

2025.6

Vol.33

●「30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標」とは？



まずは前号で紹介した「ネイチャーポジティブ」について復習しましょう。今の地球は、凄まじい速度で生き物が絶滅しているなど「ネガティブ」の状態にあります。これを2030年までに生物の種の数が回復していくなど「ポジティブ」な状態にしていくために、生態系が豊かになるような経済活動へ切り替えていく取り組みが推し進められています。ネイチャーポジティブとは日本語訳で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。国内では、2023年3月に閣議決定した生物多様性国家戦略2023-2030において2030年までにネイチャーポジティブを達成するという目標が掲げられています。ネイチャーポジティブは「みんなで我慢する」のではなく、「生き物を含めたみんなで豊かになる」ための目標なのです。

そこで、今回のテーマは、「30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標」についてです。いわゆる「30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標」とは、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

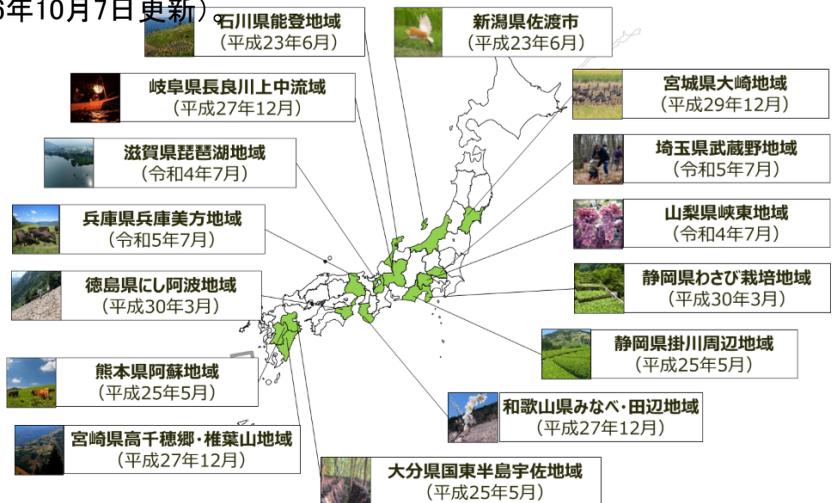
2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、2030年グローバルターゲットの1つに盛り込まれました。我が国ではこの新枠組を踏まえ、2023年3月に新たな生物多様性国家戦略「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定し、2030年までのネイチャーポジティブ(自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること)実現に向けた目標の一つとして30by30目標を位置付けています。

30by30目標は、国立公園などの保護地域の拡張と管理の質の向上だけでなく、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域(OECM: Other Effective area-based Conservation Measures)の設定・管理を通して達成していくこととなります。目標達成のためには、国の取組を推進することに加え、民間の取組等によって、生物多様性の保全が図られている区域を広げていくことも重要です。

●世界農業遺産

ここで改めて世界農業遺産について説明します。世界農業遺産(GIAHS)とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を指し、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定されます。世界で28ヶ国89地域、日本では15地域が認定されています(令和6年10月7日更新)

日本国内で認定されている15地域を右に掲げました。どの地域も世界が目指す生物多様性の保全が営みの中で育まれてきたもので世界に誇れる文化と言えます。特に日本という国は、縄文時代から人々の暮らしが、自然と共に育まれてきました。太平洋と日本海に挟まれた島国には、春夏秋冬という季節によりさらに豊富な生態系が生まれました。OECMに設定されていませんが、宮城県大崎地域は、人と大自然の青空博物館と呼ばれています。このオオサキワンダーミュージアムについて、30by30目標という視点から詳しく紹介させていただきます。



.....裏面へ続く

●オオサキワンダーミュージアム～人と大自然の青空博物館～



大崎耕土が育むランドスケープと伝統文化、継承への取り組み

大崎地域の1市4町(大崎市、涌谷町、美里町、加美町、色麻町)のエリアが世界農業遺産および日本農業遺産として認定されています。この地域は、江合川、鳴瀬川の流域に広がる野谷地や湿地を水田利用することで、水田農業地帯として発展してきました。その一方で、東北の太平洋側に特有の冷たく湿った季節風「やませ」による冷害や、山間部の急勾配地帯から平野部の緩勾配地帯に遷移する地形的要因による洪水、渇水が頻発している地域でもあります。農家は、厳しい自然環境下で食料と生計を維持するため、「水」の調整に様々な知恵や工夫、多くの苦労を重ねながら、稲作を中心とした水田農業を発展させ、「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。

巧みな水管理の主体である農家の暮らしを支えるのは、屋敷を取り囲んで洪水や冬の北西風から守る屋敷林「居久根(いぐね)」です。30by30と関連し注目したいのが、この居久根です。多様な樹種や草本類で構成され、日々の身近な食料生産の場として利用されるとともに、「水田に浮かぶ森」として、周辺



●SDGsマルシェに出展します！6月22日日曜日：サンモール一番町

きて、見て、SDGs
 さわって、マルシェ
 楽しめる 2025

つなげよう！
 ー持続可能な未来に向けてー

6.22日 10:30-15:30

会場：仙台市サンモール一番町アーケード内

出展団体：尚綱学院大学、尚綱学院大学 SDGsセンター、仙台市、仙台市環境局、仙台市農林水産部、仙台市消費者センター、仙台市消費者センター、仙台市消費者センター、仙台市消費者センター

2025年6月22日日曜日、尚綱学院大学主催「SDGsマルシェ」がサンモール一番町アーケード内で開催されます。

目的は、持続可能な開発目標「SDGs」を広く知ってもらう。2025年のサブタイトルは、「つなげよう！ー持続可能な未来に向けてー」です。大災害、複数個所での戦争など、国内外で人々の生活を脅かす出来事が続いています。このような社会情勢だからこそ、なお一層互いに丁寧な関係を紡ぎながら持続可能な社会の在り方を展望していくことが求められています。SDGsの期限とされている2030年まで残り5年。これまでをふりかえりながら次を見据えた取り組みについて考えていくことも大事と考えサブタイトルを設けました。

SDGsマルシェは、企業や団体、行政などが行っている取り組みを、SDGsの17のゴールとの関わりを示しながら紹介していくイベントです。それぞれの取り組みを見聞きし、体験することで、来場者・出展者同士でここまでできていること、まだできていない課題を共有し解決していく機会とします。第一回目から参加しているみやぎグリーン購入ネットワークは、今年も会員企業・団体・行政が一体となりそれぞれの取り組みを紹介いたします。是非この機会に！会場でお待ちしております(´-`)☆

■情報発信 (毎週更新) えしかるちゃんと一緒に考えよう！
 ➡こちらからどうぞ

■発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 TEL.022-218-5451 FAX.022-375-7797

Email: mi-green@miyagigpn.net ホームページ: <https://www.miyagigpn.net/>



■2024年度より、会員の皆様の情報を広く伝えていくために「みやぎGPNメール通信」を発行しています。新製品、新サービスに加えイベントなどの情報をお寄せいただき、オールみやぎで持続可能な社会実現にむけ進んで参りましょう。

